

慶長年録 十四年三



和書門			
三	〇	七	八
五	六	三	七
六	冊	架	函

庫	内
六	三
三	七
七	六
架	冊
函	號

一二兩巻 徳川家



内閣文庫		
番號	和	30785
冊數	6 (1)	
函號	163	182

徳川家 献本

163-182



肉919

慶長年録一

慶長十一年午年

正月立春卯刻丑刻雨降卯辰刻未巳刻ヨリ終日
雨降

京都に於て歳旦の市製を外の祓歌
今上御製

アラタニ春ノ都ノ長閑サハ兼テモ見ユル朝霞カナ
八條殿春モ年モ始メノ今朝氣色イカニト告ル鶯ノ声
関白殿春ノ来テ先降雨ノ恵ヲヤ水徳ノ國ノ民ハナクラン
龍山殿民ノ戸モユタカルヘキ時ソトヤ今日立春ニ雨ノ潤ヒ
照光院殿ヤウラクル光リ見ヘツ、降雨ノ空長閑ナル朝霞哉
聖護院殿春ノ立閑ノアナタ降雨ヤ東ノ風ヲサソヒ来ヌラン
竹内殿春来ヌト今日試ル筆ノ跡ノ霞ヤフカキ色ヲ添ラン

中院殿 クリ返ス年ノ緒ニセン百歳ノ半ヲ過ル春ノ始メソ
西洞院殿 年モ日モ同シキヤヲ今日ソトヤ春色クル逢坂山
少納言殿 白雪ノ残ルト見レハ色消テ山ハ霞ニ春ヤ立ラン

月幾句

関白殿 年ト共ニ立ヲクレヌヤ春カスミ
龍山殿 今日ニ明テイソクヤ花ノ春ノ雨
照光院殿 アラクマノ年ニツルヤケフノ雨
聖護院殿 雪ニアト雨モヤツケシ今日ノ春
竹内殿 ヤワラカニ春風シルシケサノアノ
西洞院殿 年ヤ雨ニイヤトリセシケフノ春
少納言殿 雨ノ音ヤカスミニ鼈ル今日ノ春
以上

慶長十巳己辰年正月小

一 元日申 駿河白戸出仕如例但欠濃國瓦俣

一 勢國瓦 於 白戸 駿河 之 茲 年 以 同 大市所市

之 奥

一 同日江戸果川町大市出来

一 同日江戸中町五所稻穂七石川玄蕃邸有

子内

一 同日 大市所市鷹野遠列白市出之れ

より尾列 述てる 市産山由事作

一 正月七日旧冬宗瑞負中山日經一冊の書物

をわろし書宗論よりあけられし
日之雅やん系しる日経を授る
氣分あふ伏しを理ふそよつれて
法同もつても身より不入山
いづれ寒松一樹山月石に書
浄土宗の返言しるそよつて
好山れより不系しる光城病人
ゆる勝にていふそよつて
中送り内斗中よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ

法同より負中子檀那女子より
在中よりいふそよつて
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ
いふ道中内斗よりいふそ

一正月十日 將軍家為清和野戸田浦和太宮
勅出中御前

一 正月十三日 大市不極遠列中求乞申之其日
濱松市着十日吉田十六日吉良申通其成氣
又目安を以中上者有何者々と申尋に成氣ハ
古下野殿に申附其成氣中列武川に者ためて申
成氣と申通くあう子細を盡て致云上申
市成氣成氣同一人系ゆる神妙に中上ゆる忽
て其國石ふに因合者る云成氣成氣十人
者大くを指なうら乞り系ゆる 大市不極
市成氣もく根く其貴去終に申通ふ成氣に
是ハ偽者るても其貴去終に申通ふ成氣に

此に對る市成氣に前後にあり申通ふ士皆通うけ
申通ふ市成氣に中上者あひつめを力と被ゆる
を皆あつた成氣に申通ふ是ハ長治に中上者
より其残りハ寺に地入一石小五成氣有に其
高く人代官に乞申通ふ成氣に中上者たて
我亦其更に忽通人あすえ来より上極
申通ふ人た元甲列武川成氣なり其成氣も成氣
申通ふ成氣今成氣に申通ふ其成氣に申通ふ
申通ふ其成氣今成氣に申通ふ其成氣に申通ふ
申通ふ其成氣今成氣に申通ふ其成氣に申通ふ

才云傍と申者、
國也。云々、
送る叔、
とけ者、
市本、
組、
所下り、
又書加、
の、
大山、
太山、
國

習、
一、
な、
不、
作、
沙、
中、
二、
百、
出、

し中々候

一 近日清原と清和と成りし中城被掃除し別
殿守の上は同戸不明無煙に押入らるし人
ありかきの布に悔遠方と云ふ名一徳の字を
二指利破るとき居中いさうして尋ひし百姓
いさうり山伏に逢つれてけし來候時ハ雪の
上にもより中い中おぼいさう天狗と云ふれ糸
と見ゆ中いさうハ別尾列境のこ別れ内サナケ
者トツ中ケル盗人ニテモ云くある苗を成致モ十カ
リシカ十に五日中ニ死ケルトナス

一 十九日壬辰在左傍直義 大市所末子ナク駿府を出
上是ハ大市所終是所出合清原へ依るも同
道也

一 亦日大市所自吉良是所は清和
一 総列岡高城焼亡廿二日在左東は是所
一 亦亦日大市所在左傍清原と清和
清和古ト野田荒れ知り配當去年年ト野田
加増ケル通或二子石子石五百石二百石分何モ
付及石上又云秋ハ苗等時高六万石減ニケル
分ハ割合銀六六百石力子石に減ト云く在荒

部行不成ハムナリ十ヶ所或ハ十五ヶ所二十ヶ所

ニテお返し

一自大坂秀頼云為使者所掘市心糸向大坂惣寺

右多傍より中腰物古刀浪子百枚音信也廿七日

矢濃俘虜尻右多傍より中乳浪子或拾得枚也

一自矢濃國加納^{計月}大市所是女自勢別素名

大市所孫女清次糸向對面大市所金子五十

枚了分出

一亦合紀俘國之淺野左京清順糸向右多傍より

清順糸入部賀三糸中是ハ右多傍より糸女縁道縁

有契約也計

一多武家大藏冠木像并中頼木松為勅使寄田

左多傍より糸清有糸念也之平念有卜曰之

力多後頼十ク又破ける中普々風也

一中國西國大名所々城々普清丈夫お捕申於

長崎より中頼より中中曰計表東山大佛自左

秀頼云てより建立トテ有る用急哉木自由冬

浦よりニテ買取ラレ西國同國に國小國大名多糧

或二万石或一万石お子石三ヶ石秀頼云進上

大坂に船より運送也俘虜方々神宮來秋自駿府

遷宮卜吉

二月大祀日
辰丙

五日大沛不爲濤水之濤伏氣爲然者て其故
 トテ濤便年寄氣駿河に於て連自駿河小笠原
 和泉寺常陸ノ風同ニ居ス上中ノ位也計以氣濤
 便儀好惡て其外中身也計

吳濃國尾濃國去年破換訖今歲後役百石
二人百姓役百石之人也駿河迎習荒役除

十一日大市所駿河島給

十九日自大市所極爲不便本多上總各江戶

下向是ハ上方人質能ハ改メ死セ又常陸
分反ハ常陸ハ由知ル由渡メ我成由メ
事忘也計外密事有

去年秋冬比至尚春園東流江被八數掣是

二月六

亦日常乐院日经道中门後一昨日十八日宗卷八
今日洛中门後於急口不止以祖師日蓮也
宗流宗石捕山我亦是同宗也宗卷八子孫也

相葉哉前よりタリニヲ只今ハ形也

一 田中兵部飛後國於伏見被滅

一 亦六日日本多上野分後江戸帰ル駿府同日井出
志摩寺死日來ニ病氣輕病起ニ立ル也計知乃
々代官出既甚也但惡人ニ由リ

一 亦九日雨於伏見中坊飛浮ヲ殺害是も去年夏
俘質圍ニ筒井ヲ於駿府ニ誘ふ者ナリ云乃后
下也計逆后不及是飛中人皆痛ク怒て又者ハナリ
ニカ忽忽天罰歟遂横死ヲ將ハ俘質ヲ被發山中
ト云者至宰人後俘質圍ニ鬼長門も不居タリ

カ同友同中坊可ハ来テ及夜更お渡そ後中坊ハ
奥ノ家へ引入外タリシ後山中ハ中坊急子ト一
所外タリ何者ノ仕ワサニヤ中坊カ首ヲ二刀切ル家
中者一糸不知ク夜更ニ為ニ用茶ヲニケルカ時ニ
追不云ヨ女隣子明見シケレハ也計筒井俘質も
身上げ中坊依後ニ相果シカハ中坊不意相果シ
事俘質もサコワハ此ヨカラメ俘質もハ云是メ
江戸籠居

一 寺法苑宗右常乐院ト不ニ味念仏無
同由不中名書付テ中上中於月不月代被殘

相葉哉前よりタリミヲ只今ナリ也

一 田中兵部後國於伏見被滅

一 亦六日日本多上野分後江戸帰る駿府同日井出
志摩寺死日未ニ病氣被病起ニ立亦ニ也計知リ
之代官出既甚也但悪人ニ申ナリ

一 亦九日雨於伏見中坊飛騨ヲ殺害是も去年夏
俘質國ニ筒井ニ於駿府ニ送云者ナリ云為臣
下也計送後不及是飛中人皆痛ク悪テ又者ハナリ
ニ力忽忽天罰歟遂横死ニ轉ハ俘質被發山中
ト云者ニ宰人後俘質國ニ鬼長門ト云不居タリニ

カ回友同中坊可ニ来テ及夜更お渡ニ後中坊ハ
奥ノ家ニ引入外タリニ皮山中ハ中坊急子ト一
所外タリ何者ノ仕ワサニヤ中坊カ首ヲ二刀切ル家
中ニ一糸不知ニ夜更ニ為ニ用茶ヲニケルカ時ニ
追不云者女隣子明見ニケレハ也計筒井俘質也
身上げ中坊依後云ニ相果ニカハ中坊不意相果ニ
事俘質也サコワハ此ヨカラメ俘質也ハ云是メ
江戸籠居

一 亦於亦一寺法苑宗右常乐院ト不ニ味念佛無
同中不中名書付テ中上中於月不月代被送

摩大隅人時、血を燭き、是を神宮に奉り、燭の根を燭き

十一年、神宮に燭を奉り、神宮に燭を奉り、神宮に燭を奉り

狼六万俵寄進、ふに、年、以、最、古、米、ト、テ、俵、
地盤ノ土ヲ引ケルニ古キ板ノ穴ハ地盤ケルト也
是凶事トテ、孫、宜、ク、何、テ、ト、評、定、セ、ケ、ル、カ、又
クルニカ、ル、テ、ミ、ト、ナ、リ、是ハ、長、祿、寛、正、ノ、比、樓、藏、掃、部、
云者、園、司、小、島、方、ト、及、千、戈、祓、祓、所、在、ハ、山、田、ノ、後
園、司、収、テ、米、田、中、分、テ、及、け、祓、サ、テ、掃、部、云、思、神
恵、テ、及、千、戈、云、也、け、祓、禊、ニ、カ、ラ、ス、ト、テ、神、殿、大、サ、掛
焼、死、ス、後、七、ヶ、年、禊、禊、テ、可、ク、遷、宮、ト、テ、地、盤、

樓藏ニ樓、長、祿、寛、正、ノ、比、
比、ヨリ、後、千、戈、ノ、後、
陽、治、年、ノ、後、氏、ノ、
底、仁、後、氏、ノ、

引ケルニ、後、燒、板、ノ、穴、ニ、地、盤、時、園、司、有、云、事、ケ、ル、ト、也
け、度、祓、禊、有、思、ク、也、云、秋、遷、宮、ノ、時、禊、殿、ノ、ト、テ、地、
祓、言、云、宮、柱、ニ、タ、ッ、若、根、ニ、云、發、之、テ、ト、云、テ、生、ル、ヲ
植、ル、事、有、

一、三、月、小、朔、日、按、舊、前、園、司、是、園、能、列、於、駿、府、出、仕、
年、額、礼、銀、子、百、枚、云、年、九、列、院、ハ、為、遠、園、司、移
後、礼、銀、子、百、枚、云、年、九、列、院、ハ、為、遠、園、司、移
三十枚、巾、服、十、唐、織、衣、一、同、小、衣、一、同、
十、張、虎、皮、一、同、百、張、
一、佐、列、院、同、山、け、去、燒、殿、性、受、長、名、比、二、三、年、云、續

摩大隅人時、血を海に流し、海神を祀り、海神の力を得て、

一 九月、伊勢の大神宮の有り、遷宮トテ、大市所を
狼六万俵寄進、みこ、年、以、最、古、米、ト、多、く、俵、
地盤ノ土ヲ引ケルニ、古キ板ノ穴ハ、地盤ケルト也
是凶事トテ、孫宜ク、何、テ、ト、評、定、ミ、ケル、カ、又
クルニ、カ、ル、テ、ミ、ト、ナ、リ、是ハ、長、祿、寛、正、ノ、比、樓、藏、掃、部、
云者、園、司、小、島、方、ト、及、千、戈、祓、祓、所、在、ハ、山、田、ノ、境、
園、司、収、メ、テ、方、田、中、分、テ、及、け、祓、サ、テ、掃、部、云、思、神、
恵、テ、及、千、戈、云、也、け、祓、禊、ミ、カ、ラ、ス、ト、テ、神、殿、大、サ、掛、
焼、死、ス、ミ、後、七、ヶ、年、禮、經、テ、可、ク、遷、宮、ト、テ、地、盤、

樓藏ニ、長、祿、寛、正、ノ、比、
比、ヨリ、後、ミ、最、古、
陽、治、年、一、換、氏、ナ、リ、
應、仁、後、元、三、書、ナ、リ、

引ケルニ、後、燒、板ノ穴ニ、地盤、時、園、之、有、云、事、ケルト也
け、度、祓、宜、ク、思、ミ、也、云、秋、遷、宮ノ、時、禊、殿ノ、ト、サ、地、
祓、言、ミ、云、宮、柱、ミ、タ、ハ、若、根、ミ、云、後、立、テ、ト、云、テ、生、ル、タ、
植、ル、事、有、

一 三月、小、朔、日、按、舊、前、園、之、思、田、能、列、於、駿、府、出、仕、
年、額、礼、銀、子、百、枚、去、年、九、列、院、ハ、為、遠、國、召、移、
後、ミ、礼、云、ミ、召、け、及、移、禮、礼、有、ミ、進、相、令、子、
三十枚、巾、服、十、唐、織、衣、一、同、小、衣、一、同、一、塗、
十張、虎、皮、一、同、一、百、
一 佐、列、淺、田、山、け、去、燒、殿、性、受、長、名、比、二、三、年、市、續、

一 也就燒更アリ、為相タリ、之同計、及テ卜、福危、
 一 小笠原信濃守^注、佐列、飯田城、女將軍、養子、之給、
 我中、也^注、豐前國、男、為妻、女、之來、月、卜、旬、九、列、
 て、為、名、取、歟

一 同朔日、駿河、水、路、付、日、國、東、武、列、葛、西、水、路、家、十、
 七八、同、破、換、雷、駭、鳴、落、右、之、家、一、中、一、居、一、人、
 悉、死、テ、其、日、國、高、一、抄、ノ、來、掛、ケ、ル

一 二月二日、酉、ノ、刻、八、時、二、日、己、刻、迄、雨、午、刻、八、時、
 比、日、常、降、分、長、福、之、能、之、給、是、田、能、品、寺、沢、志、元、也

同九列、
 見、お

一 清次、元、富、永、丹、波、同、男、戸、田、存、賀、也、松、平、持、津、也、
 松、井、石、見、也、日、來、之、法、友、之、中、有、終、者、清、頃、也、
 之、之、中、大、所、所、作、也、又、放、小、笠、原、監、物、迄、年、之、
 之、終、タリ、之、也、右、有、終、者、皮、同、公、時、氣、お、焼、人、
 之、乃、成、收、之、是、ハ、自、去、ノ、年、播、戸、國、一、乃、賴、池、田、
 三、之、也、乃、所、居、タリ、之、カ、依、大、所、所、作、之、殺、也、計、
 一 同、清、頃、之、也、今、乃、要、地、
 一 我、前、ノ、放、秀、康、逝、去、ノ、時、迄、暇、切、付、之、タリ、之、也、
 右、馬、助、男、知、乃、大、所、所、作、放、右、馬、助、知、乃、
 一 取、上、

一二月六日如冬天時風烈黑八時西山八雲起別
付妻于今無暖氣去月廿日比八之日一日必雨望
日定而風烈

一加藤五牙頭後肥後國上レ今日伏見立波河江
戸下

一十二日甲午戌刻高野山小田原台燒亡寺所レ合
千部斗ト之但實八七百余宇夫火ト多

一玄比八奧列舍津蒲生飛澤寺レ取燒死レ家
老レ悉レ退レ友中相攝

一二月廿二日比羽束肥前寺居不哉中國外山

城燒亡吉光殿指廣葉盡力タツキ火雅十二ヲ通

外伏實燒亡

一二月廿六日下野國宇都宮願那瀧外流電氷海屬鴨
青鸞鶴雲雀以下諸鳥多死一々ニテ鳥十二拾

死レ可レアリ

一廿六日丁午刻雷致多國村立南表初雷十リ山
際ハ憂也

一廿六日清頃年寄中并小笠原和泉寺更今是
氣色甚是併依レ云十リ和泉寺者去正月
常廣ノ國風同令評願波城小居リ知リ水

一 戸上國をては排し也富永丹波也尾列馬田子雅也助
丹波也ハ下野及松平是也帝及中養子ハ中威治津
中威領之時ハ下野及松平是也丹波父子也
國を中威

一 戸田加賀也松津也石見也ハ國をハ排石見也
但初ハハ下野及松平是也

一 戸田加賀也是ハ若年之時名倉森ハ帝ハ下野
及名倉ハ領主奥平ハ一族教友場教有也
人也松平松津也ハ是也帝及ハ家老松平誠中
子也誠中ハ野見次帝右衛門ハ甥松平石見也

一 是也帝及家老松平是也書子ナリ初ハ松平ハ右衛門
ハ中場教有也中威狀ハ下松平周防也親類也
右ハ元何家清領也孫出ハ近年ハ一味ハ元并
親類縁者ハ悉清領中進致ハハ伴出ハ他國也
ハ知也教家ハ戸澤子也ハ下也日來清寺ハ所
清也

一 有堂和泉也元何家駿府ハ出仕今日ハ元浪子二
百枚ハ神也進上

一 是ハ保賀國清領仕中礼ハ初ハ出仕也
一 故大國ハ中時ハ務業ハ大故ハ之結書ハ清り通

和向後も大坂番とお止駿河にてお治今日
大市別様と仰付

一 廿九日常陸介及能と成友壹和求と見お中
一 爲壹和求方々常陸介及へ中能道具惣来一通
進上

一 以日大市別様中不例脈つ及不足と上中目由

一 去以分衛生飛彈と秀の以以措乳と自家老に及退敷と企有と也

一 卯月廿二日陸池田と在る内城園子と是達と同道
自播へ傳り向今日駿府へ中着と成是へ

大市別様中むさく先也久敷とて市對面也是
男ハ江戸へもて参下と也

一 系助鼓お幸河原又と市助駿府病死

一 け此荊組皮袴組トテ陸者系助と先由と五月中

櫛取と七十人余と外花と之乳のけ者人

舊喧嘩と然後と改組とては中人成敗者

此指科只一旦と知事と成と凡と官と實と組頭

名ハおのれと者也荊組トハ人々喧嘩とカリル

依テナリ皮袴組トハ荊ニモ芳サルトハ城ナリ依テ

ニタバコ法度ナリ右と陸者モタバコ組と成トナリ

キセル大ニシテ腰ニサニ下人ニ七为持山
一薩戸國鴻津琉球ノ傷皮鴻津平均惣所琉球ノ
鴻津方ノ毎年續永ト名付書物有ニテ近年度
お濟之日本ノ一者概不入事ノ由ヲ琉球ノニヤ十
連中ノ鴻津方ニ云々書依ノ百条被お傷十ノ琉球
一省為ノ時ニヤ十所ノ人致於七鴻防致ノ于内共
後一旦賣ノ同ニヤ十敗小琉球ノ人武討死武々底
一則七鴻毒鴻ノ一入王城ヲ攻破テ王ヲ生虜トス
ニヤ十ト云ハ琉球ニテ武者大將十ノ皮ニヤ十日午
ヲ始テ唐ノ一屬トノ企成ニカ果メ也野良ノハ

鴻津被官ナリニ云々ニハ強皮鴻

己月七日雨降

一八日入日付コガル綴ハ鞠行ノ雪日ノ上飛友を早此
欽計日付風烈春中ノ解多甚
一素名本多中勢初ハ一男矢張書ニ十六歳ノ源氏
一ア年依於氣也計六十二
一十一日大市開振不例大形本渡也
一同四月薩摩ノ鴻津百条被集云云琉球ノ
渡海皮鴻津不及一錢則内裏ヲ責品王ヲ生捕
之由被皮鴻津中治ニ之授地指テ知ル七云々

十二万石余有_{一ト多}

一廿八日於駿府能_{アリ}常接_{之ハナ}二番_ニ給播磨池田

二在_出の息男_為松_十二番_ヲ身_有人_同能_ニ給_為松_ハ

去_比駿府_ハ江戸_ハ下_別駿河_ハ海_テ能_有

一翌_日九日_今妻親_去是_同子_去是_親世_實生_今別_有

能_一

又翌_日能_是ハ_今妻_若去_是三_番子_大親_去是

梅_若日_若今_妻親_去是_二番_子今_別是_子代

古_令別_實子_能アリ_{同日}駿河_ハ海_テ能_有

去_月朔_日今日_三斗_寺就_寺勢_事思_高院_及ハ

市_朱平_下

一五月二日雨降_先月_ハ旱_同氏_計雨_ヲ收_但未_足是

ト_多駿河_ハ切_雨降_上方_園東_ハ旱_也

一二日奥_及会_津飛_彈妻_大市_未去_女駿府_ハ是

一京極_{宰相}高_明於_{駿府}卒_去七_歲

一五日播磨池田_ニ在_出の妻_室同_為松_兄身_何モ_去駿府

身_上令_子二_百枚_銀子_牧糸_ヲ把_引出_物之_為松_身

西_京ハ_服指_合身_有人_ハ七_同身_有

一八日自_申別_終夜_大雨_曉天_休去_二日_小雨_ハ後_是初

一_比於_{駿府}右_之情_常接_之及_死胎_本多

上総分相平右忠の依成順集人永井右近安友
予の亦ナリ何七近智中辛未也

一 去々年三月廿日金化ノ系具矢タリニ時尚青藤
長化お湯勝七品助有十市ハ流罷長化ハ累
界勝房七八段波湯有十市ハ候豆大湯

一 十一日伯耆國之中村一角ハ城滅未至子造源
少河若狭國系極寧相病死男近辛在江戸
計時敏

十一日
一 伯耆國之相平伯耆忠一ハ中村幸左
弓削多保七市ハ貞忠ニ市ハ是ハ是
内府係知也

一 十七日於江戸後堂和泉寺下將軍中成去六日
自駿府今妻去吏下能ハ
一 十八日將軍中成爲收在江戸元ヲ和泉振舞有
解有

一 十九日雨 廿二日雨是ハ長面也
一 廿五日駿府於傾城可有喧嘩係ハ阿那河邊ハ遊女
てお授中下知ニ給

一 五月十八日清野紀侯与紀列之悉皆ハ用人松系
内記ヲ取月ト云十七日若殺具故ハ皮ハ内系取
者ナリニ紀侯ハ去々年ニ依テ下ニ申傳ハ相系

内記方々送内記水引三小種以下々々々々振
安内記急氣志成ケル局紀列ハハ出ニテ私
抱主々志志六月丹波國重清マモリテ皮内記
七段紀列マモリ也皮内事紀列内々々々
及お見え々々々々内記不々々々々レトモ源
ノ同終々々々々々々々々々々々々々々々々々々上
セラレぬ路々々々々々内方々々々々送ケルハ白後
内記お抱る数ト也左内計状々々々々大々々々々
ぬ又母親類々々々々紀列ハ只一人トリ皮内記事
居同々々々内記情度ニテ居ケル不々々大眼指
三刀ニ殺害ス則々々々々々々々々々々々々々々

云々々々後内々々法ノ伯又坊々々々々々々々々
軟トテ後紀及後府々々々々中々々々々々々々
中々々送叙又坊々々々々々々々々々々々々々々
所司代板倉候賀書々々々々後紀及々々々々々
物中々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
召發マシタ中々々々レト枕判ニケルト云々々
淺野紀候書々々々々々々々々々々々々々々々々
純トテ頻後府々々々々々々々々々々々々々々々
坊十一月紀及々々々お後々々々々々々々々々々

五月

1

2

22

—

2

十

47

能アリ

七月七日

一 治平家久別討江ノ橋根國家久々たりし
一本曰四月治平琉球國に海軍攻敗る生捕國王七月内朝終治平令
檢地漸十三万石余有し

一 七月十日後駿府京師に使者を遣はして云ふ
於禁中 主上迎駕如房元櫻糸會に取儀有也
主上甚違辨公家九人迎駕如房五人何七可
乃死罷ト也計ノ中緒然ハ大岡秀吉時モ如斯
儀有之又計友も恐一也後禁中駿府より文行
ノ旨ヲ逐電セラル是ハ織田有之志男有馬助
以之元一ノ國府ト云々後々助ヲ同罷
カト云々之來有る助カフキテノ方フ也緒然
中

妻加賀肥前守之女

六月八

一 父ハ工法及ノ夏秋禁ト云々ト
大事ヲ云々
ツイエアル也

一 七月下旬より大濃國有檢地
一 當年ノ秋見番ニ松平丹後守より當番也
一 七月駿府町中ノ濯ヲ是年同月合近濯八月
於江戸大久保治右衛門屋敷大寺出来内友
若狭守古修理一男家及於大賊實惠燒
一 江戸伏見を番頭として人致ハ後江山城守
山城守松平丹後守山口但馬守也八月十二日
城在番也

一十六日大水西國東國何も同前去年八月
 水より濃く遠江國近ハ二尺程高ク上レ
 一去年より比ハ内裏希有十レ一有 皇上迎留女
 房元廣橋房 唐橋房 以上五人孔形ナリ中ニ七レ女ハ
 皇上寵光ノ女性也廣橋ハ則廣橋大納言女唐橋ハ
 中ノ院也是 知女ナリ綴ハ傾城カフキノ如ク
 洛中ヲ出ル事ナリ公家九人是ニ對面ニ酒宴寵光
 之ヲ寵ニ寵次ヲ右九人ナリ猪熊 教利 爲丸 光廣 爲井
 雅賢 兄貴 ヲミイヤリ 大炊 中将 彩國 花山院少將 忠長 法大寺
 松本 菫菜師ノ爲安カ男嫡媛ト云者ナリ中未ノ

一 女房中ノ計事ヲ云上 皇上逆鱗不斜跋
 一 府ハ以勅使右ノ公家元局元ヲテハ斬罷由
 一 作下儀ハ板倉伊賀守駿河ト云下子細ヲ同信
 一 猪熊 晁科 忌々 國廣 同テ尋出ル中
 一 昭坂中勢於淡路國大岡ノ中村ハ二万石程領
 一 人此居候ケルカ此ハ伊豫ハ國勢有餘及地ナリ
 一 石澤領ナリ淡路居候ハ少壯人何モ同前淡路
 一 一 去年雨澤力ナリトテ昨年麥分テ見ケルニ
 一 正月ハ八月カ七日迄百廿日雨澤ケル中

一 去年永永淺き間敷申於園東に定ケル當年
一 勘定時右定ル前々勘定ハ永永ヲ勘方ニ
一 申シ申日付代官荒俄々永永ヲ潤ケルヲ園東
一 町人商人又永永ヲ用ケルト也永永潤キ
一 不斜サレカ果メ也去年按ニ永永淺スタリケレハ
一 付及七商人失^墮シ不^墮勝斗
一 九月初於江戸有喧嘩戸田村ニ至<sup>邊江國前々カ津城
古江國前々カ津城</sup>
一 十六日未刻小野天神石鳥井ニ至<sup>豊前
豊前</sup>放<sup>豊前
豊前</sup>顛倒ス
一 伯耆國之串村一角迄跡ヲ收メる後江戸氣田

十月二日

源七帝九貝忠三帝ヲ<sup>豊前
豊前</sup>是<sup>豊前
豊前</sup>為人<sup>豊前
豊前</sup>將軍迄也
右何モ大市所ト知也
一 公家荒亂ハ絶一<sup>豊前
豊前</sup>指<sup>豊前
豊前</sup>然ハ於九列<sup>豊前
豊前</sup>呂取荒集
一 系テ<sup>豊前
豊前</sup>為上九月十八日京<sup>豊前
豊前</sup>急ス
一 丹波國篠山ノ城石垣普清出來<sup>豊前
豊前</sup>後去六月
一 自江戸上<sup>豊前
豊前</sup>普清寺<sup>豊前
豊前</sup>内夜令<sup>豊前
豊前</sup>急門<sup>豊前
豊前</sup>駿府<sup>豊前
豊前</sup>
一 來大市所出<sup>豊前
豊前</sup>ハ時<sup>豊前
豊前</sup>於<sup>豊前
豊前</sup>庭上<sup>豊前
豊前</sup>欲<sup>豊前
豊前</sup>目見<sup>豊前
豊前</sup>受<sup>豊前
豊前</sup>甚
一 其具<sup>豊前
豊前</sup>之<sup>豊前
豊前</sup>結<sup>豊前
豊前</sup>是<sup>豊前
豊前</sup>ハ城<sup>豊前
豊前</sup>普清<sup>豊前
豊前</sup>大市所<sup>豊前
豊前</sup>出<sup>豊前
豊前</sup>シヨリモ
一 丈夫<sup>豊前
豊前</sup>ニ<sup>豊前
豊前</sup>シケル<sup>豊前
豊前</sup>係<sup>豊前
豊前</sup>テ<sup>豊前
豊前</sup>出來<sup>豊前
豊前</sup>迄<sup>豊前
豊前</sup>ノ<sup>豊前
豊前</sup>故<sup>豊前
豊前</sup>ナリ<sup>豊前
豊前</sup>及<sup>豊前
豊前</sup>人<sup>豊前
豊前</sup>ヲ<sup>豊前
豊前</sup>為
一 改<sup>豊前
豊前</sup>易<sup>豊前
豊前</sup>物<sup>豊前
豊前</sup>ト<sup>豊前
豊前</sup>ス<sup>豊前
豊前</sup>ハ<sup>豊前
豊前</sup>及<sup>豊前
豊前</sup>寺<sup>豊前
豊前</sup>所<sup>豊前
豊前</sup>庭<sup>豊前
豊前</sup>上<sup>豊前
豊前</sup>迄<sup>豊前
豊前</sup>出<sup>豊前
豊前</sup>シケル<sup>豊前
豊前</sup>ト<sup>豊前
豊前</sup>云

中多上徳外大久保所見もて指南トテ覺リ云
系七懸七ナカリナリ

一 廿一日候勢を神宮今日有遷宮と穢群衆不知
そ教所交社壇場動ナリ

一 廿二日板倉候勢も後駿河内系云家九人の西國に
て流ナリナリ人ノ局ハ東國にて流ナリ

一 付比上徳外死 大市所来子ナ家老云和登川
山城も事ナリ付人ナ来國本也上徳外

一 養父ナリ山田長門も松平澄政も山ノ谷も同安
駿府に云上を所ハ上徳外乃跡荒トナ施云信一

ナリ也勢に候教ナ系書載則上徳外後江戶駿府

一 系系上 大市所来子ナ家老云和登川

一 お子ハ國をナリ系士清之帝也 後山田長門切腹ス
登川父子改易

一 廿七日候勢を神宮有遷宮

一 廿六日九段石見船云と初小黒船二艘云ナリカハ

月十日ノ大同船ナリ破損ニテ風ニ放乃方ナリ

出ケルカ付比上徳外大野浦に吹寄列駿府に右

々旨有浪子同ナリナリ船中ノ荷物船云

心ノ候ニ高ニ致申曰

一 廿七日故大同政所申方ノカウ荒至今日出京ニ

中多上総分大久保所見もて指南トテ惣リ云
要モ懸モナカリケリ

一 亦一日俘虜古神宮今日有遷宮古族群衆不知
其致能受社壇鳴動ト云

一 亦二日板倉俘虜も後駿河由系云家九人の西國に
て流トナリお人の属ハ東國にて流ト也

一 付比上総分死 大市所末子亦家老者皆川
山城も事アリ付人本東國東門也上総版

養父ナリ山田長門も松平隆清も以下各ハ同安
駿府に云上を所ハ上総版なり

タリ也初ニ倭教ナキ書載則上総之後江戸駿府
ハ系上 大市所連ニ理ヲ云上家老者皆改易

おまハ國を以テキ士流ニ帝也
後山田長門切腹ス
大市所連改易

一 亦七日俘虜所官も遷宮
一 左六月九日船名ニ初小黒船二艘名ケルカハ

月十日ノ大同船ナリ破損ニテ風ニ被テ方知
出ケルカ付比上総國大野浦に寄テ列駿府右

ニ旨有浪子同ナリナリ船中ノ荷物船に在
心ノ終ニ高テ致申曰

一 亦七日故大同政所由方ノ力ヲ獲至今日出京ニ

駿河に於て放牧下肥後等連領二万石アリ是男
宰相宮内有人之知以て政訓に於て其職に由
て駿府曰く政訓ハ宰相一人ニ宛て宮内ハ一
系ニ不_レ及_レ也 大寺所甚_ニ具_ニ給_ニ若_ク省_ニ理_ニ者_一
て其_レ聞_トテ駿府に於て下惣別近年政不_レ老_ニ毫_一
秋氣遠_ニ比_ニ奥_ニ成_ニ事_一多し而_レ年ハ皮二万石頃
て其_レ石上_トテ板倉俵賀と南_ニ毛_一て納_ニ由_ニ曰_ニケリ_一
一 九月朔日^{亦九月}於_ニ戸有_ニ宣_ニ院_ニ經_ニハ_一水野市心不_レ遠_ニ
列_ニ濱_ニ松城_ニ之_ニ松平_ニ有_ニ馬_ニ元_ニ才_一
其_レ度_ニ發_ニニ_テ久_ニ未_ニ有_ニ平次_ニト_一腹_ニ於_ニ才_ニハ_ト之_ニ者_一及_ニ其_一

有_ニ平次_ニ才_ニハ_ト一_ニ刀_ニツ_ニテ_一退_ニ出_ニ有_ニ平次_ニ則_ニ進_ニを_一
宇治桑所ハ才_ニト_ニ之_ニ者_一有_ニ平次_ニ才_ニ前_ニ有_ニ抱_ニ有_ニ馬_ニ元_ニ才_一
ハ_ニ變_ニ十_ニリ_ニケ_ニル_ニハ_ト才_ニハ_トて_一進_ニタ_ニ有_ニ平次_ニ才_ニ後_ニも_一
有_ニ抱_ニ有_ニ平次_ニ才_ニ云_ニ我_ニ己_ニ之_ニ實_ニ平_ニ附_ニ成_ニ地_ニ思_ニ一_ニ同_一
て_一難_ニ由_ニ中_ニケ_ニレ_ニ庄_ニ不_ニ難_ニ有_ニ平次_ニ堪_ニ死_ニ心_ニ思_ニ有_ニ元_一
才_ニ一_ニ刀_ニ突_ニ糸_ニ燈_ニ時_ニ有_ニ馬_ニ才_ニお_ニ果_ニ才_ニハ_ト才_ニ有_ニ元_ニ才_一
ル_ニカ_ニ於_ニ相_ニ模_ニ國_ニ大_ニ山_ニ越_ニを_一其_レ生_ニ害_ニ亭_ニ之_ニ市_ニ心_ニハ_一寺_一
入_ニニ_ケル_ニカ_ニ十_ニ月_ニ中_ニ旬_ニニ_ハ才_ニ為_ニ切_ニ腹_ニ有_ニ馬_ニ才_ニ進_ニ出_ニハ_一才_ニ收_ニ云_一
係_ニ石_ニ川_ニ之_ニ度_ニ既_ニ才_ニ湧_ニ松_ニ願_ニ為_ニて_一才_ニ改_ニ納_ニ頃_ニ駿_ニ府_ニを_一
有_ニ馬_ニ家_ニ中_ニノ_一者_ニ有_ニ南_ニ毛_ニ才_ニ一_ニ才_ニ改_ニ易_ニを_一中_ニ小_ニ浦_ニ

新右衛門新之助ト云者あ人の苗知れりモ其別系
濱松府馬の織田有楽也男子有三人一男セキ
ト云云馬妻の江戸に下

一 唐船系ノ賣買于今無ク何事モ自駿府ト知
給依ル商人流シ長崎迄留ス系ノ船ヲおき
一 十一月長崎ト云商人ヲ下トハ候ナリ先
其申ハ夏秋中ノ千今後駿府系ヲ京中ハ
其為賣又銀ヲ前ハ候又モ南隣ノメ云々力
付交ハ不次メ日本ノ下銀判ノ候モ申渡駿
府系船ト下知商人迷惑ナリ候モ云々候付候

一 去々年ノ伏見城在番中其別内膳丹波國
龜山ニ在城申渡江戸將軍令ナリ候モ十月
廿日六日此役地に候知ル二万石モ海領ナリ城
番清ハ其妻モ申渡云々

一 江戸カノノ番清有リ同系流指シモ申渡川
ノり江戸ハ同流次湖入り道悪カリケレハ路上
ノ野山ヲ二十石或二十余石堀入り候モ石多メ
番清モ及迷惑モ云々十月末モ出来

一 同日於駿府大所判ヲ出致有系會
ハ織田有楽入ノ夜堂和泉西尾豊後時日可

有申會机雨友及今日西尾ハ伯耆國依在番
別翌日上レ

一 玄比ハ若狭國坂系極宰相是男家中ニ者有
態吾主水依五福次仁雅意中有主史依ハ
江戸ハ使者マ多改レ也及使者將取玄庫ト者
也玄月ト旬江戸ヲ出ス是皆駿府ヨリ依ハ知
給也宰相ハ高年於駿府歿死是男ハ在江戸
成ケレタ 將軍是女若狭國ニモ主史依ハ
又ハ相果ニ付別若狭ハ主史依ハ

一 十月二日戸田九右衛門死去是駿府高師也尚

時為壽ヲカカレケリブミノ外大概云此也
年中ニ百二十ハ為ヲカケルカ百十斗ハケ
クフニニテカケルト也

一 西尾豊清ハ伯耆國ハ在番依是

一 十月十日禁中ハ人々局倅豆ハ丈為トハ流去旨
ト出京セラレケルカ駿府ハ不ハ多ハ主史依ハ
倅豆ニモ主史依ハ何モ發ヲ判カ小袖ヲ布子整ト女
二人お添ハ人ハ別在為ナリ云家元花山院ニ
數カ為飛鳥井中將ハ環波為相木ト大炊門
同十八年五月為死依依ハ薩方方ユツカ力為飛

高井卜 附波ハ先 駿河ハ 弘治寺ハ
 出散免 猪熊ト 通安ハ 後安人ハ 京澤古寺常
 昔寺高ハ 穀又猪熊ハ 寛後ハ 神保寺ハ 恥辱ハ
 右ハ 流鼎元霜月ヲ 为上旬トシテ 十月九日記流也

七月廿日

[illegible]

一十六日水野帝心切腹死

於宿市喧囂以爲尤擗死去年
伏見三總亮等仕並有由是之信村

同日切腹三浦孝八

腹中八寸中付産八寸人馬タリ是三葉並
中八寸産八寸中八寸と切後分

海保之春

是ハ園東流ニラ大カナリ仰見在番々内々ノレテ第出過相
撲より少ク秀粉々中房ヲ投敷スけるヤ白ハ後上ニ成ル
来り乃之吉新月ト云余存在外也押愈ゆる御致

荒淫長子

有賀忠之帝世臣田小傳次小侯俘者出

同宮產九帝亦切服

少知是妻子之相捕以同死出切服右之阮二年

う間々在伏見町屋より通ひ書番仕り名番合

又方一、あふ道、辻、致、喰、喉、を、ん、く、く、ひ、く、く、と、や

事乞初め人乞切く食ふ酒乞給中のみ

者及愚事多々切腹
後舟中改易荒

小兒反心者

又お果の忌に内々されて
江戸つわり中の方迄あつた

海方平九帝小門

大寺市

石見人々家買人々家殺りて其の

津戸及門戸田

森右衛門呂弥左七郎井原に市下

於此見之乃後露所 梶

九節右衛門

一廿二日疾於駿府大久保處十石見子見家焼死及他不

一太市所廿六日押国東へ市下今日若値寺被地

二廿日有逗面と也中多上総介大久保石見初

中より

一令相模國古井山へ出下テ大久保石見寺を建付不

初大久保お列ぬ順に地十石定り山東ハ惣地を建

初下中

一廿七日相子皆川又子三人改易山田長門中松平

隠波中江に去此より押籠主ケルカ今日中江改

是上総介及家老を士下
三事仕負和曲より有之

一廿九日大濃國大垣城より石川日向も死去七十六是

去々年長門も死去後男依為幼雅江國

東江上左城下りこカ也也

一中國西國小國大名荒何七園東に十二月下テ

於江戸より就年從十リ是併江駿河内

依中江

一十一月五日大市所江二馬駿府に中江城給圖

依り例也江戸將軍に為使者安友等力と
 一七日自江戸本多依後年七十一駿府に上
 大市新園東下向うおし自二海々内同急
 江戸に立テ今日府中へ
 一江戸將軍駿府より見返テより我々を
 大市新園有内院よりけりて延引由
 大市新園
 一八日西公家流罷元今日出京親類ノ人々日來
 恩常ノ家人名沙ヲ惜落涙致りて馬丸
 飛鳥井二番目息雅波内院に候是國に流

けり前々事付

十月十三日

安藝國へ福徳左衛門左衛門江戸にて下ニテ今月

十日大坂に上

一十六日本多依後書自駿府江戸に帰ル

一尾列清順ヲ名古屋にて引トテ自駿河曹

清寺の牧野助右衛門來テは地ヲ地割廣狭

縄張ヲスル來去テ石垣普清トナリけり

去几天正十二し南織田信雄 信長二男皮國より

り三時普清に力抄去ニテ古居堀跡ケレハ

新井並村井水如系ルノ系上下ノ者不始

十月廿七日

今夏去石垣タレハキ古惣トモ昔トナリモ上
去八月大水清須ト鞆ハケシハ自然ノ時水賣メ
テ販トテ来年名古屋トテ移トナリ
廿五日福清左衛門左衛門見ヲ立園東トテ下
落次ハ本島筋也

玄八月大水清頃に鞆入ケレハ自然ノ時水賣メ
て瓶トテ束年名古倉にては授トナリ

て瓶トテ束年名古倉トテは樽トナリ

廿五日福壽寺惠書
建伏見寺之園
東山
活次八本為筋也

活次、本爲筋也

一廿六日 大寺新様所より——か今日也

收氣

廿月

一
 戊松平伯智書伯智國主五月
 修徳侯年去新判地
 修村園今戸に石考家老八切後
 小倉十左衛門所立市は石出
 右多清智殿に尾引は是より放落麻子及荒子紙中附取平定より改

右多傍盤股白虎刊
 以是三月放落盤股
 氣子孫財財財財財
 平定三月改

親者も元来係る嗣子も多し情勢及申切推し時奉るは 仍申親方
に依り申守給へ申依り給ふ中多し京和泉寺改修所も 尾列大由城へ常
列並同様に正徳寺 仍申平定八尾列へ 此是平定尾列へ 其誠友廣
及泉老富永丹波寺も此多し京和泉寺へ 平定寺 右多し情勢及泉老
丹波寺へ 又丹波寺へ 平定寺 右多し情勢及泉老 平定寺 右多し情勢及泉老
中多し平定寺 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方
此多し平定寺 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方
此多し平定寺 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方
此多し平定寺 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方 右多し情勢及泉親方

平氣

[illegible]

浮舟志んよりうひえんも来り留何とを彼
 船と目よりけて対ふ中修理をとり来りせめ
 くらゝしゆれ唐人と用心仕上陸比の
 柳をて見て居中の修理ふ及是那に云船と云
 テ賣亦可中用意ししゆて板子と見せ
 少船の馬船ハ対ふ大船にてけ方と船より
 見上るハ小山の上と見るごとく幾もとくさ
 くらゝ船とくくらゝしゆんと多し用意仕
 を見て唐人と心知今日九日俄に船を出し十
 二三里なり漕河より然る唐人忽逢天より

ころ小や風忽と起る十里程吹停てめゆり
 うと云ふ小舟止然と逆風頻ふ吹て不計
 いよりと落して當り有馬方よりうつぎの
 上子^續延咄丈を入る水中とていよりを切
 れる疾のことくくして何と切ても不計修理
 け同よりくくく舟を漕ぎ傍横すあけ舟
 漕ぎ奏しけり舟ハ高し唐人疾馳す
 弓上子にて先陣く味方く云十五六人討
 死を患然れ長谷川友之清横舟致多用急
 して奔来有馬修理大に悦び横舟を乗移り

此根ヲ清ルニ力也何思ケニ代リヲ不取ル事
當龍南蠻人かゝれ私して送る迄
諸國より集る町人より宣して傳ふ

一 右馬込水ノ上斗燒水ノ浸るを沈テ今有二十

一 五石程沈みノ方より來海士其ヲ取計和總ヲ

引テ其引上テ斗軟根ハ之ヲ貫目程テ其

子ハ何程ても其ノ不知系ハかく浮上ケルヲ取テ

駿府使持系系如系如俄高止計秋系一ニニ

根子ヲ貫式二百目價十リケル力思和臧却

後式貫七八百目價十リ

一 十一日夜前々今朝迄大雪

一 計此駿府使持系如近江國上總分及二十万石

テ其初より中十リ又翌日五十万石テ其後ト曰迄江

一 佐和山城之故井候々如か浦急号々冬如か浦急濃

國川中流にて其をト十リ

一 又濃國大垣城之故石川長門也号々冬如か浦急為

幼少者トリ其東にて故在江戶大垣ハ大久保

相摸也二男石川之及以て校中作付

一 幸江國濱松城ハ水野梅後也同對馬也其事

其校計對馬也ハ自去年常陸之ハ其付

後テ十リ去九月相平在馬模死ハ時改易後

濱松狼藉之時被校友お蔵者たノミツサノ由
 風吹付有美人ヲ為玉目ニ是知乃未嘗沙汰
 一遠江駿河兩國常陸分及八丈ノ後トナリ道
 軍王恙々常陸分及テ分付付月本多上総分
 江戸將軍トテ付付ト也

市川
 一常陸分及テ駿河を以て兩國ノ分石ノ是也
 常陸分及テ駿河を以て兩國ノ分石ノ是也
 常陸分及テ駿河を以て兩國ノ分石ノ是也

一遠江國横須賀城之國丸ノ為初少百安友
 常力被家中者ヲテ引也申也
 一十二日東上野大畑ノ牧野右馬允死ニ十六
 十七年

以常ノ世ヲ恨ス隱居男ニハ濱山

年四月一日改採

年指本ト云々仕出何ノ書指ヲモ放家
 摺ノ南時長ヲ極小云未代ノ事實也

一貞十二月悪船ヲ歩果時長吉川忠多清ト云者
 別々斗略是ハ駿河ノ長清ト毎年元永
 賣買ノ搜侵系トノ事也此乃有テ清カ
 十リ計忠多清王國使十リ悪船追治ノ時小船二
 艘モヨイ町屋ヲ買テセイロウニミテ悪船ノ
 卜口コキ入ヘキ謀ナリ先惡船ニ追付時石大矢
 等ノ方ト思船ノ卜ハ我船ヲ系入列惡船

濱松狼藉之時被板友お殘者方ノミツサノ由
 風吹付有美人ヲ為玉目ヲ是知乃未嘗沙汰
 一遠江駿河兩國常陸外及ハテ後トナリ道
 軍ヲ悉ク常陸外及テ付付内ト多上総外
 江戸將軍トテ付付也

市見日
 一常陸外及テハ駿河並ニ兩國ノ方々ハ是レハ道留書悉クハ附録板
 房ハ於常陸外及テ付付内ト多上総外

一遠江國横須賀城之國丸ヲ為初少百安友
 常力被家中者ヲテ引出申也

一十二日東上野大畑ノ牧野右馬允死五十六
 七十七年

以常ノ世ヲ恨ハ隱居男ハハ濱山

一けふニテ年摺本ト云々更仕出何ノ書相ヲモ致事如
 摺ノ面時是ヲ板本云々未代ノ事實也

一正月十二日黒船ヲオ果時長谷川忠多清ト云者
 別々々斗略是ハ駿河ハ長崎ト毎年元船
 賣買ノ搜便系以下ノ事也此乃ハ多清カ身
 十リ計忠多清王國使ナリ黒船進治ノ時小船二
 艘モヨイ町屋ヲ買テセイロウニミテ黒船ノ
 卜口コキ入ヘキ謀ナリ先是船ニ迎付時石大矢
 等ハ方口上黒船ノ卜ハ我船ヲ乗入列是也

葉也

中國西國小國大者危者尚月
肉府極肉之也

江戶

伏見^ノ番^ノ元^ノ仕^ノ至^リ付^テ是^レハ大^ニ番^ノ元^ノ樊^ノ會^ノ海^ノ中^ニテ^モ我^レ仕^ノ空^ノ院^ノ過^リ切^ニ
 渡^リ事^ノ公^ニ世^ノ良^ニ田^ノ小^ニ俣^ノ侯^ノ七^ノ五^ノ萬^ノ其^ノ元^ノ尾^ノ是^レ中^ニ有^リ賀^ノ忠^ノ三^ノ帝^ノ者^ニ
 中^ノ成^ノ級^ノ大^ニ列^ノ同^ノ宮^ノ彦^ノ九^ノ帝^ノ其^ノ后^ノ以^テ不^レ妻^ニ子^ノは^レ子^ノ挿^ニ之^レ付^テ出^テ切^ニ被^ニ賜^ニ
 之^レ否^ハ第^ニ一^ニ所^ノ大^ニ力^ノヲ^テお^レ撲^ニ死^ニ居^ニる^ニ者^ノ賴^ニ中^ノ同^ノお^レ撲^ニ在^ニ死^ニ申^ノ同^ノ在^ニ

[illegible]

今年ハ京都ハ東國ハ西國豊年ト云々

呂宋國商船至濃畧教蠻而後海之時式遭賊船
武漂逆風到日本國程別以計畫之予之適災
害者也聊莫涉於豫不備

庚辰十月初冬申院

葉也

中國西國小國大者危者安月
肉府稱肉々々中後倭々々也

頃
戸
止

伏見中書元帥仕至乃仍封是ハ大書氣樊會海ノ中ニ殘仕喰覽過切
流事一仕世良田ハ佛次ハ僕伴古事ハ其後モ女帝有賀忠三帝名
中成及右ノ列同宮者九帝ハ所以下妻子ハ右攝二月存出切後海ノ
云々ハ系ハ連所ハ方方ハお撲ハ最ハ秀頼ハ中同ハお撲ハ永仲同ハ

市心者言中易也 竹村
 市心者言中易也 竹村

今年ハ京都ハ東國ハ西國豊年ト云々

呂宋國商船至濃晃致變而後海之時武遭賊船
武漂逆風到日本國程則以計畫予之適災
害者也聊莫涉於豫不備

慶長十巳初冬中院

市来系

加飛丹世連良壽安專頒氣羅

奉勅于周院日本國出陣以九萬一千八百人

一、賜東國海軍送護民政教店政海軍大臣宣稱

一、今奉勅于周院日本國出陣以九萬一千八百人

奉勅于周院日本國出陣以九萬一千八百人



奉勅于周院日本國出陣以九萬一千八百人

